

平成 29 年度 ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 渋谷教育学園幕張中学等・高等学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育^{※注1}
 中学校 中高一貫教育^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校 その他 ()

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒261-0014

E-mail kokusai@shibumaku.jp

Website http://www.shibumaku.jp

幼児児童生徒数 男子 1396名 女子 607名 合計 2003名

幼児・児童・生徒の年齢 12歳～18歳

2. 活動期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真)

※チェック事項 1-1 2-1 に対応

本校は「自調自考の力を伸ばす」「倫理観を正しく育てる」「国際人としての資質を養う」を学校理念としている。ESDを継続して実践することによって得られる教育的な効果と捉え、様々な教育を実践することを目的としている。

① 自調自考に係わる教育

本校教育実践の基本目標である「自調自考の力を伸ばす」は、自らの手で調べ、自らの頭で考える力を伸ばす教育である。その一つとして生徒は高校3年間を通して課題研究に取り組んでいる。生徒の興味は多様である。個々の考えを大切にし、それぞれの才能を伸ばすための研究である。フィールドワーク、実験など様々な手法を用いて最終的には論文という形でまとめた。

② 平和教育に関わる活動

本校の高校1年生では、毎年、広島や長崎で平和学習が続いている。今年度は広島をフィールドとして実施した。事前準備として、『はだしのゲン』の著者である中沢啓治氏のドキュメンタリーである『はだしのゲンが伝えたいこと』（石田優子監督）を使用した。生徒は平和学習としてそれぞれがテーマをもって広島市内や呉市を中心にフィールドワークや施設の見学、被爆者の体験講話などを実施。事後学習として学年発表会、最終的に記録集を作成した。

③ 国際人としての資質を養う活動

グローバル化に対応し第二外国語講座（独語、仏語、スペイン語、中国語、ハングル 中3～高2）を開設している。また、語学研修や家庭体験を目的としたニュージーランドホームステイ（中3）、文化交流を目的とした中国修学旅行（高2）、高校生の希望者による短期海外研修として、アメリカ研修（西海岸でのホームステイ）、次世代リーダープログラム（バーバード大学での研修）、イギリス・北京・シンガポールでのホームステイ、ベトナム研修など様々な研修を実施した。

長期留学および留学生の受け入れでは、高校を中心に数名の生徒が留学中で、海外からはブラジル、スイス、フランス、ドイツ、オーストリアなどからの留学生が在籍している。ニュージーランド、シンガポール、北京からの生徒の短期ホームステイを受け入れている。また、海外大学進学を目指す生徒が増加していることを受けて、海外大学進学支援などを実施している。その他、模擬国連大会への参加、JICA研修生との交流会など様々な活動を実施した。

④ SGH（スーパーグローバルハイスクール）に関わる活動

国際的に活躍できる人材を育成するために、「食をテーマとした多角的アプローチによる交渉力育成プログラム」に取り組んでいる。国際人として日本の文化を学び、社会課題に対する関心と深い教養を身につけ、交渉するためのコミュニケーション能力向上に努めた。具体的には、食に関する3回の講演（「グローバル化の中での日本の食について考える」政策研究大学院大学 株田文博氏、「輸入食品の安全性」厚生労働省横浜検疫所輸入食品・検疫検査センター長 三木朗氏、「食品ロス」Office3.11代表 井出留美氏）のほか、海外の学校を招いて英語で行うミニフォーラムを実施、ファシリテーター講座をもうけるなど準備を進めた。3学期には、運営指導委員の方々や東京外国語大学の留学生を招き、高1は課題研究発表と交流会を、高2は授業科目「英語表現」の発表を実施した。



① 自調自考論文要旨集（左）自調自考優秀論文集（右）



② 広島研修 平和学習



③ ニュージーランド研修（中3）



④ SGH 課題研究発表会

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. 地球市民教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. その他 (自由記入 伝統文化)			

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 持続可能な開発に関する価値観 (人間の尊重、多様性の尊重、非排他性、機会均等、環境の尊重等)	
<input checked="" type="checkbox"/> 2. 体系的な思考力 (問題や現象の背景の理解、多面的かつ総合的なものの見方)	
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 代替案の思考力 (批判力)	<input checked="" type="checkbox"/> 4. データや情報の分析能力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. コミュニケーション能力	<input checked="" type="checkbox"/> 6. リーダーシップの向上
<input type="checkbox"/> 7. その他 (自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 通常の授業時間を使用 (総合的な学習の時間を含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 時間外活動の時間を使用
<input type="checkbox"/> 3. ユネスコクラブの活動として実施	<input type="checkbox"/> 4. その他 (自由記入)

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど)

『論文の教室』(NHK BOOKS) 生徒全員購入 『はだしのゲンが伝えたいこと』(石田優子監督)
--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

環境への取り組みとして高2年生の「地理」と「英語表現」にて教科横断的な学習に取り組んだ。「英語表現」はネイティブと日本人の英語教員のディアルテーチングの形態をとる授業である。英語表現の「絶滅危惧種」に関する学習内容の取り組みをうけ、地理では資源量が減少し、資源管理が行われているマグロ・ウナギ・クジラなどを教材として取り上げた。生徒各々は絶滅に瀕する動物について地理の課題研究に取り組みポスター形式のレポートを作成、それを英語表現の授業につなげた。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

国際理解を推進し、語学研修や文化交流を行うために、ニュージーランド、アメリカ、中国、シンガポール、ベトナムなどの学校と提携を行っている。また、JICA（国際協力機構）とは、アジアやアフリカなどの国々からの研修生との交流を2回実施した。ACCU（ユネスコ・アジア文化センター）を通して、韓国教員団を受け入れ、外国語や海外文化と接する機会を積極的に行う体制をとっている。

中3では、毎年、模擬裁判を実施している。中心は社会科であるが、学年の全面的な協力を受けて学年行事のような形態をとることにより教員間の協力体制をとっている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

・高校3年間をかけて課題研究をする「自調自考」論文では、10名程度の生徒を担当教員が指導し、優秀な論文を選考、その後、最終的に選考教員で構成されるチームによって優秀論文を選出する。最優秀論文が決定し、その他の優秀論文とともに優秀作品集に掲載される。

・広島での平和学習については、クラスごとに優秀チームを決定し、学年集会で発表、最優秀チームは、生徒の投票で決定し、最終的には全員のレポート集を作成した。

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項2-2に対応

・内外の高校生を集めて行ったミニフォーラムでは、英語によるプレゼンテーションや分科会を実施した。準備段階からファシリテーター講座を受講し、まとめ役としての技術を養った。英語力やリーダーとしての指導力やまとめる力を身につけた。
・学園祭では、海外研修や留学生などのプレゼンテーションやポスター発表を通して、本校生徒だけでなく、外部の来校者に向けて研修の成果、外国での体験、外国文化などを発信することができた。参加者も多く、国際的な興味を持っている人が多いことがわかる。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項2-3に対応

・スーパーグローバルハイスクール全国高校生フォーラム(パシフィコ横浜11/25)に参加し、人口増加に伴う食料問題をテーマに発表した。
・千葉大学で開催されたESDフォーラム(10/21)では、地元の金融・農業・工芸・交通・植物化学企業などから持続可能な発展、地域信仰を目指した各社の取組みについて、高校生、同大学生や院生、留学生、企業、教育委員会、ユネスコ協会などの方々とともに議論を深めた。
・東京外語大学との高大連携としてSGH発表会にて交流を実施した。
・全国高校教育模擬国連大会に参加、本校でも練習会などを実施した。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項2-4に対応

・昨年度まで活動していた千葉県高等学校連絡協議会が発展して千葉県高等学校教育研究会ESD部会が発足、同時に加盟した。研究会の趣旨は「環境、貧困、人権、平和、開発など現代社会の課題を自らの問題としてとらえ、その解決につながる新たな価値観や行動を生み出し、未来につながる持続可能な社会を創造していく活動や教育を一層活性化する」である。地域のユネスコスクール間の連携をとり、研究と実践を通して活動を行った。
・1月には、国際連合大学(UNU)主催の韓国教職員招へいプログラムにより、34名の韓国の先生方の訪問を受けた。歓迎セレモニー、学校見学の後、昼食をとりながらの生徒との交流、午後は、韓国の先生方による授業、本校教職員との質疑応答が行われた。韓国の先生方によるハンゲル講座や伝統的遊戯を活用した授業や交流に、生徒は楽しく参加し、異文化体験をすることができた。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

ユネスコスクールの活動に参加した生徒は、積極的な行動が目立ち、各方面に活躍している生徒が見られる。

千葉大学ESDフォーラムに参加した男子生徒は、日本ユネスコ協会連盟が主催する第8回ESD国際交流プログラムに選抜され、インドネシアでの研修に参加した。別の男子生徒は、生徒会会長を務めるなど学校生活やSGH活動に積極的に参加している。

過去にユネスコスクール活動に参加していた生徒の中には、海外大学への進学をした生徒や、海外の高校へ単身で転学をする生徒も複数名いる。

- (3) 平成30年度の活動計画200～400字程度)

ユネスコの精神である平和・福祉を目的とした教育活動を進め、国際的な交流や平和教育活動を続けたいと考えている。引き続き学校内での活動を持続し発展させ実施するとともに、SGHについては、国際会議「Water is Life 2018」7/24～28を渋谷高校と共同開催する。

対外的には、千葉県高等学校教育研究会ESD部会の研究会やワークショップと、千葉大学主催のESD研究会、ESDフォーラム、成果研究発表会などに参加する予定である。